第５回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会会議録

１．日　時

平成１７年１０月７日　１５時００分～１６時１０分

２．場　所

塩谷広域行政事務組合　１階大会議室

３．出席者

職　　名	氏　　名
委員長	（学識経験者）　西谷弘子
副委員長	（ さくら市 ）　菊池崇雄（欠席）
委員	（ 矢 板 市 ）　長谷川健　小松高行
	（ さくら市 ）　関　忠司（欠席）　天野順子　蛭田幸子
	（ 塩 谷 町 ）　松尾享子　立岡芳司
	（ 高根沢町 ）　飯泉八重子　君島　毅
	(地元住民代表)　高塩克敏　岡田　明
	（学識経験者）　小久保行雄
	(アドバイザー)　今泉繁良　中村祐司
職員	（ 矢 板 市 ）　岸本副主幹　高瀬主任
	（ さくら市 ）　添田副主幹
	（ 塩 谷 町 ）　中山主査
	（ 高根沢町 ）　荒井課長
事務局	(塩谷広域行政組合)　高久事務局長　阿久津課長　舘脇副主幹 磯室長　小堀主幹　印南係長 片野係長　斉藤主任
	（日本技術開発）　高橋富男　中尾さやか　中山伸吾 宮澤俊介

４．議事次第

1）開　　会

2）あいさつ

3）第４回ごみ処理検討委員会検討結果報告

4）議　　題

①第１回リデュース部会、リユース部会報告

②リデュース部会、リユース部会での検討

③可燃ごみ処理システムの評価

④その他

5）閉　　会

５．配布資料

・第５回 塩谷広域行政組合 ごみ処理検討委員会会議次第
・資料１　第５回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告
・資料２　可燃ごみの処理方式について
・資料３　有害物質が含まれている主な製品について
・資料 4-1　第１回リデュース部会報告
・資料 4-2　第１回リユース・リサイクル部会報告
・資料５　各市町のごみ分別状況
・資料 6-1　宇都宮市での学校給食残渣利活用事例
・資料 6-2　プラスチック類の処理について
・資料７　ごみをできるだけ出さない生活について－３Ｒとは－

６．受領資料

・各市町で異なるごみ・資源物収集
・ニュースレター No12 2005.10

７．会議録

1）開会

2）あいさつ

・委員及びアドバイザーの力を借りて、次期の環境施設整備事業の推進を進めていきたいと考えている。
・一般廃棄物処理基本計画については、各市町担当者及びコンサルタントにより作業が進められている。素案ができしだい各委員へ提示する。
・環境施設の整備に際し、用地検討委員会を９月 28 日に設立した。委員会は高根沢町からの推薦委員 10 名、公募委員２名、アドバイザーとして宇都宮大学から２名の計 14 名で構成されている。
・用地検討委員会メンバーとごみ処理検討委員会メンバーで、10 月 17 日に塩谷広域、大田原、宇都宮の施設視察を行う。

3）第４回ごみ処理検討委員会検討結果報告

○資料１について事務局より報告。
・追加：焼却灰は半分を福島県小野町、残りの半分は小山市の民間企業で委託処理を行っている。
【アドバイザー】
・主目的は、減量化について検討ということでよいのか。減量化や焼却処理システムなどを含めた、循環型社会に相応しいシステムの構築を検討していくことが主目的なのではないか。
【委員長】
→減量化については細かく提示していくが、それ以外の処理システムを含めた循環型

社会の構築していくことに修正すること。

4）議題

（1）第 1 回リデュース部会、リサイクル部会報告

○資料 4-1、4-2 について各部会長より報告。

（2）第 1 回リデュース部会、リサイクル部会での検討

○資料 5 について事務局（日技）より説明。

※各部会のメンバー及び会議録は、別紙参照

○10 分休憩後、ごみ処理検討委員会の開催

（3）可燃ごみ処理システムの評価

○資料 2、3 について日技より説明。

【アドバイザー】

・運転管理の温度が異なっている。溶融処理は 1,300℃、焼成処理は 1,100℃、焼却処理は 800～900℃と修正すること。

・どの程度の規模を想定し、建設費を算出しているのか。減量化を考慮するならば、もう少し規模が小さくなり、建設費が異なってくる。

・最終処分量を 4,600ｔ（1 案）としているが、平成 15 年度実績で焼却灰 2,670ｔ/年、不燃物の埋立が 3,500ｔぐらいである。数値の根拠を示してほしい。

【事務局（日技）】

→規模は 100ｔ/日で考えている。

→現有施設からの焼却灰の残渣率が非常に低いため、ここでは残渣率を 12%と想定し算出している。その結果、若干最終処分量が増加している。

【委員長】

・最終処分量は、現状の施設ではなく新たに建設した場合の施設で算出しているのか。

【事務局（日技）】

→新施設を想定し算出している。

【アドバイザー】

→現状の施設での検討なのか将来の施設で検討するのかを統一するべきである。

【アドバイザー】

・新たな評価項目として、地域活性化の視点を加えてほしい。焼却施設のみの問題ではく、同時に発生する熱や電気の利用についても検討すべき視点である。新しいタイプの焼却施設を検討していくためには必要なことである。

【委員】

・塩化水素によって施設が傷むと言われている。熱利用についても、塩化水素によって阻害されるのではないかと心配している。現状、塩化水素の除去は、消石灰でおこなっており、塩化水素を消石灰で中和し安全な排ガスとしている。例えばヨーロッパや東京等ではどうしているのか。また、もともとの原料の中の塩素の量はどう

なっているのか。分別収集だけでなく、塩化水素を除去する方法についても検討しなくては、プール等を作ったときに熱交換器が破損してしまうといったことも起こりかねない。ヨーロッパの方では分別が徹底しており、ビニールやプラスチックを使わない社会ができている。そのヨーロッパでの施設では、熱利用率はどの程度なのか。

【委員長】

・建設費は現状の施設で算出し、最終処分量は新施設で算出している、どうすればよいか。

【アドバイザー】

→2 案では、最終処分量を 2,100ｔ/年（スラグ 600ｔ/年）としているが、平成 15 年度実績では不燃物 3,500ｔ/年である。どのように処理をすれば、2,000ｔ/年も最終処分量が減少するのか。

【事務局（日技）】

→確認する。

【委員】

・余剰熱や発電量のデータがない。熱量がどの程度でるのかによって、維持管理にまわすのか、福利厚生にまわすのかなど、私たちが検討する重要な項目である。1～4 案でどの程度違ってくるのか。

【委員】

・塩化水素の影響が課題として残っている。塩ビを分別し、燃やさないことで最終的には埋立処理になっていく。

【委員】

→塩ビを埋め立てることで別の問題もでてくる。遮断型として保管する方法もある。ものによっては、資源化を行っているケースもある。

【委員長】

・旧喜連川がおこなっているボトルの分別は塩ビなのではないか。

【さくら市】

→ポリエチレンである。ペットボトルはポリエチレンレテフタレート、その他のプラスチックで 4 種類程度行っている。塩ビの焼却処理は行っていない。全てリサイクルしている。

【委員長】

・塩化ビニール以外に塩化水素を発生するものはあるのか。塩素漂白している紙などからも発生するのではないか。

【委員】

→少量は発生するだろう。

【委員長】

・焼却施設以外にも必要な施設はないのか。例えば、リサイクルプラザなど。

【委員】

・これから施設を整備していくに当り、用地検討委員会で一番検討されている項目は何なのか。

【事務局】
→第１回用地検討委員会は、具体的な話までは行われていない。適地検討に向けての素材を提供したまでである。具体的な検討は、24 日に行われる次回から行う予定である。
【アドバイザー】
・焼却施設だけでなく、他にどのような施設が必要なのかを検討するのは、3 つある委員会の中でこの委員会でしかない。リサイクル、リユースをするのでも、家庭から排出される段階で徹底的に取り組んでもらうのであれば、大規模な施設は必要とはならない。ところが、家庭への負担を考慮し、リサイクルプラザにて処理を行うという方針をもてば、リサイクルプラザが必要となる。例えば、簡単な例として、鉄とアルミの分別を家庭で行うのか、缶として出してもらいリサイクルプラザで行うのかといった、どこで線引きを行うのかの議論をするべき委員会である。
【委員】
・プラスチックの何がなんという名前で、どういう性質なのかを知る必要がある。それらのリサイクルを知ることがきっかけとなり、次回までに調べてもらったり、自分達で調べたりすることで、アドバイザーが言われたことにつながっていくと考える。家庭での分別が可能かどうかの検討の前にそれを知らなくてはならない。
【アドバイザー】
→混合されているのか、していないのかの区別もつかない状況である。
【委員長】
→現在は、空缶ということで一緒に回収している。旧喜連川のみでアルミ缶、スチール缶に分けている。アルミ缶とスチール缶は、誰でもわかるように書いてある。
【委員】
→アルミ缶とスチール缶の区別は分かりやすいと思っていたが、実は簡単ではない。アルミだと思って出しているものが多くある。一般家庭で分別するようにするのであれば、表示を見ることを徹底するようにする必要がある。
【アドバイザー】
・リサイクルプラザと家庭の中で浸透させる分別の仕方の問題は、リサイクルプラザの機能面には大きく関わっている点である。しかし、それ以外の価値として、地域の子供達への関心や人々のリサイクルプラザへの関わり方、リサイクルプラザが開館した時にどれだけの人たちが関わるかなどを考えると、私個人の考えでは、家庭である程度頑張って分別してもらい、頑張って分別した人とそうでない人とを差別化することで、地域でのリサイクルプラザの価値はでてくると考える。横須賀の話では、最新の機器を使っても分別には大変苦労している。両立の面から考えると、家庭での徹底化がリサイクルプラザのあり方に密接に比例していると思う。
子供達がだいぶ変わってきており、子供達が親に注意する姿を随所にみられるようになってきている。本日提出された資料の中でのキーワードは、焼却灰の資源化、資源品売却などにあるのではないかと思う。特に、焼却灰の資源化を私達がどうとらえるかが重要な問題である。例えば、温水プールの温度確保のためや売却のためにごみが必要になったりして、減量化とは逆の方向に進む恐れもある。私としては、

焼却資源品の売却は考えず、エリアの中で採算性を度外視し、減量化の徹底を行っていくことが良いのではないかと考える。マーケットの考え方が焼却灰資源化に関わっていくことは非常に難しくなる。当初のスタンスを確認するべきであり、社会的効率や視点などについては、コンサルタントが用意するのではなく私達が作っていくべきであり、用意されたものから選択するようなことではない。私達が考えて社会的効率や活性化について、しっかりとした項目立てを作ることが重要である。

【委員長】

・総合評価をするときに、どこを重要視して評価するべきか。二酸化炭素排出量などは、焼却処理では運搬に二酸化炭素を排出するとの説明があったが、例えばすぐそばに最終処分場があれば二酸化炭素の量は減るのではないか。高根沢町の人は、そこまでできると考えているのか、施設ができると考えているのか。

【委員】

→処理場の周りに灰を埋めた時期があった。それにより地下水が使えなくなり、周辺住民は傷ついている。そのため、処理場の周りは徹底的にきれいにし、物を落とさない、埋めない、地下水を汚さないことを徹底しないと後々問題になる。

【委員長】

・用地検討の共同研究においても、最終処分場の計画については検討していなかった。基本的にその部分が抜けたままここまで来ているのではないか。

【アドバイザー】

→共同研究で検討を行ったが、あの段階ではその部分は抜いて議論することとなった。

【委員】

・私の信念として、処理施設を迷惑施設と呼んでいるが、施設はそのようなものではないと主張していきたい。ごみを処理する質などの資料がでれば判断しやすい。

【委員長】

→生ごみ、プラスチック、紙ごみが減ったらなど、分別の仮説をたてた資料があればわかりやすい。

【アドバイザー】

→プラスチック類など高カロリーなものを減らしすぎると、極端な例だが今後老齢化が進み、紙、プラスチックなど全て分別し燃やすものは紙おむつだけといった状況になったら、燃やすためにエネルギーを使うようになるのではといった状況を考えてしまう。

【事務局（日技）】

・資料 3 の数値の件だが、平成 15 年度実績は不燃ごみと粗大ごみを合わせて 4,200ｔ/年が処理されている。そこから、埋めるものが 617ｔある。この割合を用いて算出している。今後、ごみ量予測等を行っていくので、数値の精度は上がっていく。

【委員長】

・今後の 20 年を考えると、今だけのことだけはなく予測していかなくてはならない。将来の想定に際して、紙類をリサイクルした場合、プラスチック（ペットボトル、ポリプロピレン、その他のプラスチック）をリサイクルした場合、生ごみが無くなった場合など仮説の資料の提出を依頼している。

【委員】
・紙おむつは生産者が処理方法を考えてもらうべきである。処理が困難なものをどんどん作り出して、それを行政がお金を出して何とかしている状況は横暴である。
【委員】
・私たちも手も足もでないと言って黙るのではなく、地域からの声が上がらないと、改善されていかない。
【アドバイザー】
・今回の施設の稼動は 7 年後であり運転期間を 20 年間と想定すると、私は今 58 歳だが 7 年後には 65 歳となっている。それから 20 年後は、よっぽど健康でなければ紙おむつを使っている可能性はある。そういう時代を想定した焼却場をつくろうと検討しているため、創造性を豊かにする必要がある。焼却場、管理棟、リサイクルプラザ、地域還元施設（プール、学習センター）、公園緑地、処分場などトータルとして考えていく必要がある。今の我々に役立つものではなく、子や孫の時代に役立つものを検討している。
【委員】
→地元としては、人は来て欲しくない、排ガスはきれいになってほしい、空気はきれいになってほしい、ごみを落とさないでほしい、草はきれいに刈ってほしい、ここに処理場があるからきれいになっているという状況がよい。人が来るとか利用するものがほしいとは地元住民は思っていない。
【委員長】
→近隣住民にとって良い施設ではなく、周りの人にとって良い施設になってしまう。
【委員】
→トイレや手洗い等でよく、人の集まる施設などは必要ない。
【アドバイザー】
→そこを最終決定していくのが用地検討委員会である。それらのいくつかの案を出すことにより、場所を決定していく。
【西谷委員長】
・ここでは、必要な施設は施設として提案していく。17 日の施設視察では、学習館の必要性や熱利用状況、稼働率などを質問して、実りあるものとしたい。

検討部会終了

（4）その他

〇次回の日程
第 6 回検討委員会は平成 17 年 11 月 11 日（金）13 時 30 分開始とする。
【西谷委員長】
・極力資料は、事前送付してほしい。

以上